

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 生物工学コース）【既設】														
	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1			高度国際性涵養教育科目として履修可
	分子微生物学	1①②		2		○				1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2		高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可
	バイオテクノロジー特論	1①②・1③④		2		○			7	8	1	6		高度国際性涵養教育科目として履修可
	組織生産プロセス工学	1①②		2		○			1	1				
	生物工学ゼミナールⅠ	1通	2			○			7	8	1	6		
	生物工学ゼミナールⅡ	2通		2		○			7	8	1	6		
	生物工学実験	1①②	2					○	7	8	1	6		
	生命先端工学特論Ⅱ	1③④		2		○			1					
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1					高度国際性涵養教育科目として履修可
小計（21科目）		—	4	27	0	—			7	8	1	6	0	
高度国際性涵養教育科目	工学英語Ⅰ	1①②		2		○								兼4
	工学英語Ⅱ	1③④		2		○								兼4
	OJE方式による演習Ⅰ	1③④・2①②		2			○							兼4
	OJE方式による演習Ⅱ	1通		2			○							兼4
	インターンシップ	1③④・2①②		1				○						兼4 集中
	ビジネス日本語Ⅰ	1①②		2		○								兼4
	ビジネス日本語Ⅱ	1③④		2		○								兼4
	小計（7科目）		—	0	13	0	—			0	0	0	0	0
高度教育科目	生命先端工学特論Ⅰ	1①②		2		○								兼3
	小計（1科目）		—	0	2	0	—			0	0	0	0	0
合計（29科目）		—	4	42	0	—			7	8	1	6	0	
学位又は称号		修士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係					
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
（生物工学コース） 上記科目から必修科目4単位を含めて14単位以上、専門教育科目から26単位以上、高度国際性涵養教育科目から2単位以上及び高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。 ただし、工学英語Ⅰ・Ⅱ、OJE方式による演習Ⅰ・Ⅱ、インターンシップ及びビジネス日本語Ⅰ・Ⅱは、上記科目から必修科目4単位を含めて14単位以上の中には含まれないので注意すること。							1学年の学期区分				4期			
							1学期の授業期間				8週			
							1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）														
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士前期課程 バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）【既設】														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門 教育 科目	生命工学	1③④		2		○			1	1				高度国際性涵養教育科目として履修可
	細胞動態学A	1①		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	細胞動態学B	1②		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物資源工学A	1①		1		○			1	1		1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物資源工学B	1②		1		○			1	1		1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ゲノム機能工学	1③④		2		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	微生物学特論A	1①		1		○			1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	微生物学特論B	1②		1		○			1		1		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	分子微生物学	1①②		2		○				1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ナノバイオテクノロジー特論A	1①		1		○			1	1		2	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ナノバイオテクノロジー特論B	1②		1		○			1	1		2	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	細胞工学特論A	1①		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	細胞工学特論B	1②		1		○			1	1			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生命環境システム工学特論	1③④		2		○			1	1		1	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	応用生物工学A	1③		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	応用生物工学B	1④		1		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物プロセス工学	1③④		2		○			2	2			高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー特論Ⅱ	1③④		2		○			8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅠ	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅡ	2①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅢ	2③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅣ	2①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー実験Ⅰ	1③④		4				○	8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	先端バイオテクノロジー実験Ⅱ	1①②		4				○	8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	英語特別課題演習	1③④		4				○	8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	安全工学	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	工学日本語Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1	7		
	工学日本語Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1	7		
	ES PバイオテクノロジーA	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ES PバイオテクノロジーB	1①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可	
	ES P先端化学A	1③④		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可 集中	
	ES P先端化学B	1①②		1			○		8	9	1	7	高度国際性涵養教育科目として履修可 集中	
小計（32科目）	—		5	42	0	—		8	9	1	7	0		
教 育 度 科 目 養	先端バイオテクノロジー特論Ⅰ	1③④		2					8	9	1	7		
	小計（1科目）	—		0	2	0	—		8	9	1	7	0	
合計（33科目）		—	5	44	0	—		8	9	1	7	0		
学位又は称号		修士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
（バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム） 上記科目から必修科目5単位、専門教育科目から26単位以上、高度国際性涵養教育科目から2単位以上及び高度教養教育科目から2単位以上を含み、合計30単位以上を修得し、修士論文の審査に合格すること。 なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、高度国際性涵養教育科目の単位として算入し、必要単位を超える分は専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分				4期		
								1学期の授業期間				8週		
								1時限の授業時間				90分		

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）															
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程）【既設】															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	生命科学特論	1①②		2		○									高度国際性涵養教育科目として履修可
	物質科学特論	1①②		2		○			2						
	物性科学特論	1③④		2		○			2						
	物質生命工学研究企画ゼミナール	1通	2			○			7	8		5			
	生命先端工学特別講義Ⅲ	1①②		2		○			7	8		5			
	生命先端工学特別講義Ⅳ	1③④		2		○			7	8		5			
	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6			
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6			
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6			
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		7	8	1	6		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		7	8	1	6			
	海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1						
	研究企画ゼミナール	1③④	2				○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジー演習Ⅰ	1③④		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジー演習Ⅱ	1①②		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジー演習Ⅲ	2③④		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジー演習Ⅳ	2①②		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジー演習Ⅴ	3③④		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジー演習Ⅵ	3①②		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅤ	1③④		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅥ	1①②		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅦ	2③④		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅧ	2①②		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅨ	3③④		1			○		8	9	1	7			
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅩ	3①②		1			○		8	9	1	7			
合計（30科目）		—	4	37	0	—			8	9	1	7	0		
学位又は称号		博士（工学）		学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
生命先端工学専攻博士後期課程に3年以上在学し、各コース等（物質生命工学コース、生物工学コース、バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）の定める修了要件を満たすこと。								1学年の学期区分			4期				
								1学期の授業期間			8週				
								1時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）															
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程 物質生命工学コース）【既設】															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	生命科学特論	1①②		2		○									高度国際性涵養教育科目 として履修可
	物質科学特論	1①②		2		○			2						
	物性科学特論	1③④		2		○			2						
	物質生命工学研究企画ゼミナール	1通	2				○		7	8			5		
	生命先端工学特別講義Ⅲ	1①②		2		○			7	8			5		
	生命先端工学特別講義Ⅳ	1③④		2		○			7	8			5		
合 計（6科目）		—	2	10	0	—			7	8	0	5	0		
学位又は称号		博士（工学）		学位又は学科の分野				工学関係							
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授 業 期 間 等							
（物質生命工学コース） 上記科目から必修科目2単位を含め、専門教育科目6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分				4期			
								1学期の授業期間				8週			
								1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）															
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程 生物工学コース）【既設】															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門 教育 科目	生物機能工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6		高度国際性涵養教育科目として履修可	
	生物機能工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6			
	生命反応工学特論Ⅰ	1①②		2		○			7	8	1	6			
	生命反応工学特論Ⅱ	1③④		2		○			7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅢ	1①②		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅣ	1③④		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅤ	2①②		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅥ	2③④		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅦ	3①②		1			○		7	8	1	6			
	生物工学ゼミナールⅧ	3③④		1			○		7	8	1	6			
海外フィールドスタディS	1①②		1				○	1							
合計（11科目）		—	0	15	0	—			7	8	1	6	0		
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
（生物工学コース） 上記科目から専門教育科目6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1 学年の学期区分				4 期			
								1 学期の授業期間				8 週			
								1 時限の授業時間				9 0 分			

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 事 前 伺 い ）															
（工学研究科 生命先端工学専攻 博士後期課程 バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム）【既設】															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	研究企画ゼミナール	1③④	2					○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅰ	1③④		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅱ	1①②		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅲ	2③④		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅳ	2①②		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅴ	3③④		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジー演習Ⅵ	3①②		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅤ	1③④		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅥ	1①②		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅦ	2③④		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅧ	2①②		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅨ	3③④		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
	先端バイオテクノロジーゼミナールⅩ	3①②		1				○		8	9	1	7		高度国際性涵養教育科目として履修可
合計（13科目）		—	2	12	0	—				8	9	1	7	0	
学位又は称号		博士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
（バイオテクノロジー産学共創グローバル人材育成特別プログラム） 上記科目から必修科目2単位を含めて、専門教育科目6単位以上を修得し、博士論文の審査に合格すること。なお、専門教育科目のうち高度国際性涵養教育科目にも該当する科目を修得した場合は、専門教育科目の単位として算入する。								1学年の学期区分				4期			
								1学期の授業期間				8週			
								1時限の授業時間				90分			